こんぞむかし新聞

'14.8.No.20
発行人 岡田昭
責任 0883-88-5247

むかしむかし、といっても明治時代のことでした。祖谷の河俣という所に久吉さんという百姓がすんでいた。

ある日の事、スゲを採っていて一休みをしていると、谷に光るものがある。手にとると、よくみえる石だった。

持ち帰りその日に聞いてみると銅鉱石という石であり、評判になったそうな。

そんな話を聞いた山師の西項という人が試掘した所、鉱石を掘りあて、分析の結果、銅の中に金も含まれている良質の鉱石だったそうな。

さあ、それから山の中は大変な事となり採掘権がはじまり、最盛期には坑夫だけでなく二百軒もの宿泊所、食堂、売店などが出来たそうな。

また、芝居小屋も建ったそうな。

年二回の山神祭り、浪曲師や芸者も招いて賑やかであったそうな。

それから西項という人から採掘権は大阪の藤田組へ移ったということらしい。

明治時代の地形図の中にも銅山として記入。

作業坑口も八カ所に増え夕夕ら製錬り、仲介に政治さんという人がたったそうな。

しかし大正三年頃金が高騰、経営が悪化し売りに出したが買い手がつかず、外国人が馬に乗って下見にきそうな、この銅山は大正五年に閉山となったという。

こんな話がありそうな。

さて、二千世紀のある年のこと、山仕事の手伝いをしていたある日の事。

水が湧き出ている所で、不思議な石を見つけた。

「きれいな石やなあ」とおもい手に取ると、どうも人工的に加工されて焼かされて固った石をみつかり、所々光っている。一緒に仕事をしていた人と夢が広がる話になってくる。近くで、トンガや石斧もみつかる。谷には、樋口に使ったと見られる木材もある。

帰宅して調べる。知人にも聞いてみる。するとうわさしい物の最後」という本に、昔の銅山あとと書きがありました。そこで、ある人に調べてもらうと、祖谷にも二カ所あるそうな。

明治時代の地形図の中にも銅山として記入。

そんな時代もあったんだーと、金山を夢みる。

～コテージのパーティー～

こんな日、たまにはいいネ

七月のある日、武家屋敷で結婚式そうそう。

祖谷コテージで披露宴がありました。

米国人の男性と日本人の女性とが結婚。

男性は、祖谷の学校で英語を先生としてきていることがあり、今回、祖谷で結婚式を希望してようです。

すべてが手作り、武家屋敷での式。そしてコテージでのパーティー。多くの祖谷の皆さんが協力し実現しました。

コテージでは二回目のパーティーですが、外国人を多く大変な盛りあがりでした。食べ物も、祖谷の皆さんがはげおち、工夫されて好評。たまには、こんな祝い事もいいなー。二回目もやりたいなあ……とおもいました。

泰津さんとネイトさん おめでとう!!